

### 只見の歴史を探る①

#### 六十里峠・八十里峠を越えた黒曜石

#### 越えた黒曜石

▼今月号からは、只見の歴史エピソードをテーマに六回の連載がはじまります。

▼執筆は、只見町教育委員会で発掘や文化財を担当している渡部賢史さんです。

▼これまでに小林の七十苧遺跡や黒谷館遺跡などの発掘や文化財調査をしています。そのなかのとっておきの話を紹介させていただきます。



▲七十苧遺跡出土の黒曜石

只見町の遺跡からは黒曜石という硬くて黒色をした石が発掘されています。現在までに、大倉の窪田遺跡で二八点、小林の七十苧遺跡で一点、深沢遺跡周辺で二点、出土地不明一点、合計三二点の黒曜石の確認があります。年代は、およそ縄文時代の中頃（五千年前）から弥生時代の中頃まで（二千年前）のもので、黒曜石はガラス質でできており、割れると非常に切れやすいので、ヤジリ・ヤリ・ナイフといったものに使用されました。産出地は国内に数十か所ありますが、只見町では産出しないものです。

只見町で発見された黒曜石は、いったいどこから運ばれてきたものなのでしょうか。そこで明治大学黒曜石研究センターで分析をしていただきました。分析には、蛍光X線分析装置を使用します。黒曜石は、産出する場所によって含まれている鉄

町村	産地	西霧ヶ峰産 (長野県)	高原山産 (栃木県)	板山産 (新潟県)	和田峠産 (長野県)	不明	合計
只見町		20	7	3	0	2	32
南会津町田島		5	21	0	1	0	27
南会津町館岩		2	5	0	0	0	7
南会津町伊南			2	0	0	0	2
下郷町		1	14	0	0	0	15

▲南会津郡で出土した黒曜石の産出地一覧

や銅などの含有量が少いはず。その産出地の黒曜石と只見町で発見された黒曜石とを分析して照合すれば、どこが産地なのかかわかります。分析の結果は、長野県（西霧ヶ峰系）二〇点、栃

うになつていきます。下郷町は一点中一四点が栃木県高原山産、一点が長野県西霧ヶ峰産、南会津町田島では二七点中二二点が栃木県高原山産、五点が長野県西霧ヶ峰産、一点が長野県和田峠産、南会津町伊南では二点発見されており栃木県高原山産のみ、南会津町館岩では七点中五点が栃木県高原山産で、二点が長野県西霧ヶ峰産でした（下郷町史第七巻）。



▲黒曜石の流通ルート

新発見されています。今このところ、新潟県魚沼市から高原山産は発見されていません。しかし、只見町から高原山産の黒曜石が発見されていることを考えれば、高原山産の黒曜石がある可能性が高いと考えられます。注目すべきことは、三条市で栃木県高原山産の黒曜石が発見され

只見町で発見された黒曜石の存在は、縄文・弥生時代に、現在と同じままではないにしても八十里越、六十里越を越える流通ルートがあったことを示すものです。